

第25回世界道路会議PIARCソウル大会

25rd World Road Congress

西村 巧* 國府田 樹** 粕谷ひろみ***

By Takumi NISHIMURA, Miki KOUDA and Hiromi KASUYA

1 はじめに

世界道路協会（WRA：World Road Association，通称PIARC：Permanent International Association of Road Congress）は、道路の建設、改良、維持、利用の促進や世界全体の道路技術・道路交通政策の向上を目的として1909年に設立された国際機関である。現在、121カ国が加盟している。世界道路協会の活動は、4年間で1期間としており、2012年から2015年までの活動期間では、4つの戦略テーマ（ST）の下に17の技術委員会（TC）が設けられ、調査研究、途上国でのセミナー等の活動を実施してきた。

世界道路協会では、道路分野の最も権威ある国際フォーラムとして、4年に1度、世界道路会議を開催しており、同会議では、世界各国の道路関係者が一同に会し、新しい知識・技術の紹介や各国が抱える課題について意見交換等を行っている。

第25回世界道路会議は、2015年11月2日から6日まで韓国・ソウルのCOEXで開催された。本会議は、『道路とモビリティー交通による新たな価値の創出』（Roads and Mobility - Creating New Value from Transport）をテーマとして、114カ国から3千人以上が参加し、40カ国の大臣等も参加した。会議は5日間にわたって、3つの基調講演、4つの戦略セッション、14の特別セッション、17の技術委員会セッション、6つのワークショップが開催され、多くの参加者が活発な議論を行った。

2 大臣セッション

開会当日、技術委員会等による各セッションに先立ち、「次世代に向けた道路政策の展開」をメインテーマにして、35カ国の大臣等が参加した「大臣セッション」が開催された。ユ・イルホ韓国国土交通大臣の開会挨拶に続いて、世界各国が直面している重要な課題で

ある(1)持続可能な財源（Sustainable Finance）、(2)サービスの改善（Service Improvement）、(3)新たな技術（New Technology）に関して、3つのラウンドテーブルに分かれて、各国の取り組み状況や課題等に関する意見交換を行い、「ソウル大臣宣言」が採択された。



写真-1 大臣セッションに参加した各国大臣

3 戦略セッション：モビリティと増大する都市化

本セッションでは、昨今、世界的に深刻化している大都市圏でのモビリティの確保について発表と討論が行われた。

本セッションの開催にあたりPIARC加盟国にナショナルレポートを公募し、12か国からレポートが提出された。各国レポートの論点の共通性と上記セッションテーマに照らして、サブテーマとして「新技術導入の実現性」と「都市交通計画と土地利用計画の整合化」の2つを設定し、2部構成でセッションが行われた。

第1部では、「新技術導入の実現性」をサブテーマとしてITSや自動運転等の各種新技術の導入が如何に都市交通の課題を解決するのか、その導入における課題は何でどのように解決するのかについて、日本、フランス、スウェーデン、イギリス、アメリカから様々な取り組み状況を紹介し、意見交換を行った。日本からは、ETC2.0を活用した賢い道路の利用の取組や日本

のITSの導入戦略について発表された。急速な都市化とともに発生した道路交通問題の解決には、ITSや自動運転などの新技術の重要性が認識された一方で、導入にあたっては、環境・安全・経済面での持続可能性やビジネスモデルの検討が必要という意見が出された。

第2部では、「都市交通計画と土地利用計画の整合化」をサブテーマとして、都市圏における土地利用計画が交通に及ぼす影響とこれを踏まえた両者の計画整合化について、スロバキア、オーストリア、チェコ、韓国、セネガル、スイスから関連する取り組みを紹介し、意見交換を行った。都市交通問題解決には自動車交通、公共交通、非動力系交通からなるマルチモーダルな交通戦略と土地利用計画、都市開発を密接に連携させることが重要であるという意見が出された。

4 日本展示館

世界道路会議の展示ブースにおいて、日本は国土交通省ほか官民25団体で、「道路インフラの海外展開」の推進を図ることを目的に日本展示館を出展した。国土交通省による「世界をリードする日本の道路政策」、高速道路会社による「海外に広がる日本の高速道路技術」、道路関連企業・協会団体による「日本が誇る道路技術」の3つのゾーンに分け、長大橋梁、トンネル、舗装、維持管理、ITSなど、日本が誇る道路技術をパネル、模型、映像を使ってPRした。



写真-2 日本展示館



写真-3 日本展示館のオープニングセレモニー

5 おわりに

本会議では2012-2015年の活動成果が報告された。2016年からは新たな4年間の調査研究が始まっており、5つの戦略テーマの下、17の技術委員会(TC)が設置されている(表-1)。また、TCに加えて、今サイクルでは4つのタスクフォース(TF)が設けられている。TFは絶えず変化する社会情勢及び技術の進歩を鑑み、より迅速な対応が必要となる課題に焦点を当てた活動グループである。新たなタームのさらなる成果に期待したい。

表-1 技術委員会とタスクフォース(2016-2019年)

戦略テーマ(ST)	技術委員会(TC)
STA: マネジメントと財政	A.1: 交通行政のパフォーマンス A.2: 道路交通システム経済と社会開発 A.3: リスクマネジメント TFA.1: 革新的な資金調達 TFA.2: 国家および準国家機関間の協調
STB: アクセスとモビリティ	B.1: 道路ネットワーク管理/ITS B.2: 冬期サービス B.3: 都市圏の持続可能なマルチモーダリティ B.4: 貨物輸送 TFB.1: 革新的交通ソリューションのための道路設計とインフラ
STC: 安全	C.1: 国家道路安全政策とプログラム C.2: 安全な道路インフラの設計と運用 TFC.1: インフラのセキュリティ
STD: インフラストラクチャー	D.1: アセットマネジメント D.2: 舗装 D.3: 橋梁 D.4: 地方道路と土工 D.5: 道路トンネル管理
STE: 気候変動、環境と災害	E.1: 適応戦略/レジリエンシー E.2: 道路事業および運用における環境配慮 E.3: 災害マネジメント